

議会だより入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 174

2015年7月27日



じゅわ〜っと
にゅうぜん

6月
定例会

目次	わき水 きもちいいな〜 (芦崎保育所)
カキレストランに補助	2 P
保育士5名採用へ(常任委員会レポート)	4 P
町政を問う 一般質問(9議員)	6 P
エネルギー自給率160%の町葛巻 <small>くずまき</small> (委員会視察レポート)	15 P
東狐の獅子舞(入善の祭り)	16 P

深層水活用のカキレストラン 新設に補助金増額

6月議会は、2日から17日までの16日間開会し、町長から提案のあった平成27年度補正予算1件、専決事項の承認3件、条例の一部改正、工事の請負契約など2件、固定資産評価審査委員会委員の選任について審議し、すべて可決した。
また、請願1件を審査したほか、10日、11日に一般質問が行われ、9人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

補正予算の概要

一般会計の補正予算は、藻場造成に係る工事請負費の増額や「入善 牡蠣ノ星」(カキレストラン)新設に係る補助金の増額、デマンド交通運営開始に伴う経費、学童保育指導員賃金の増額などである。

一般会計で2039万円を追加し、総額108億6379万円とした。

◎主な事業

○漁場整備事業費 2030万円
藻場造成に係る国補助金内示額の増加に伴い、事業の一部を前倒しする。

○海洋深層水活用推進事業費

1050万円

「入善 牡蠣ノ星」の施設建設に伴い、設備補助金を増額する。

○公共交通運輸対策事業費

461万円

町営バス路線等の見直しに係る運行経費の増額や、デマンドタクシー予約センターの設置・運営に対し補助をする。

○児童センター管理運営費

135万円

学童保育児童数の増加により指導員賃金や運営委託料を増額する。

○企画事務費

141万円

ケーブルテレビ事業の組織移行に係る準備経費負担金を計上する。

○担い手育成対策事業費

323万円

担い手による大豆生産の拡大に伴い、大豆コンバイン導入に対して補助をする。

○おいしい米づくり実践事業費

100万円

営農組織が購入する直播き用田植機に補助をする。

討 論

反対討論

井田 義孝 議員

一般会計補正予算には7月から実施予定のデマンドタクシー関連費用が含まれているが、500円と高すぎる運賃への割引拡充や、予約の締め切り時間が早すぎる問題など、住民の声が反映されておらず賛成できない。

今回の補正には、入善学童保育の指導員増員、図書館臨時職員の増員予算が盛り込まれているが、当初予算を組む際に現場実態をしっかりと調査把握すべきだ。



8月2日オープン予定の「入善 牡蠣ノ星」

工事請負契約を議決

5000万円を超える公共工事の
請負契約について可決した。

上青小学校大規模改造事業

建築主体工事（第2期）請負契約

請負者 吉原建設株式会社

請負金額 1億6956万円

条例の改正

入善町体育施設条例の一部を改正する条例

町武道館の冷暖房設備設置に伴い、使用料1時間につき500円を加える。

賛成全員で可決

入善町固定資産評価審査委員会

委員の選任

6月30日で任期満了となる固定資産評価審査委員会委員に、新たに井田邦章氏を選任することに賛成全員で同意した。（任期は3年）



井田 邦章氏

（芦崎）

請願

平和憲法をこわす「安保法制」に反対する意見書採択を求める請願

請願者

「戦争する国」づくり反対共同行動実行委員会

土井 由三 ほか1名

反対多数で不採択とした

討論

反対討論

中瀬 淳哉 議員

今回の「安保法制」の大きな目的は、平時から有事に至るまで隙間のない法制を整備することにより、結果として「抑止力」を高め、紛争を未然に防ぐことができるということである。

現在の日本は、他国の脅威により、国民の安全が脅かされていると言っても過言ではない。果たして現況下で友好と対話が成り立つのか疑問である。あくまでも「抑止力」を備えた上で、外交による平和の体制づくりが必要と考える。

賛成討論

井田 義孝 議員

この安保法制が通れば、日本が攻撃を受けてもいないのにアメリカの戦争に参戦し、これまでの「非戦闘地域」ではなく、どこへでもアメリカ軍の補給に行く事になる。日本の若者が殺し殺される危険が格段に高まる。

憲法学者も憲法違反だと言い、全国の自治体でも反対意見書が採択されている。非核平和都市宣言をしている入善町でも採択すべきだ。

黒東合口用水組合

議会議員の選挙

7月26日に任期満了となることから、入善町選出議員15名を選出した。（任期は4年）

- 五十里 隆章氏（裏手専）
- 中瀬 淳哉氏（入膳）
- 元島 正隆氏（上野）
- 中瀬 範幸氏（上野）
- 松澤 孝浩氏（青木）
- 山下 勇氏（芦崎）
- 下田 八一氏（一宿）
- 松原 博氏（新屋）
- 坪野 和夫氏（下山）
- 鬼原 征彦氏（浦山新）
- 林 徹氏（荒又）
- 谷口 一男氏（柗山）
- 佐藤 一仁氏（横山）
- 梨木 正和氏（舟見）
- 長原 均氏（今江）

レポ ー ト

総務 常任委員会

入善学童保育の受入れ態勢を強化

Q 入善学童保育における児童数の増加により、その指導員賃金を増額しているが、当初予算では見込めなかったのか。

A 前年度推計で予算を組んでいたが、見込みきれなかった。今後このようなことが無いよう努めていく。



大人と将棋(入善児童センター)

Q 今年度、入善学童保育の児童数が51名だが、国のガイドラインではおおむね40名と制限している。受入れ態勢は整っているのか。

A 現在51名を4名の指導員で対応しているが、1名を募集中だ。町としては、希望者全員を、可能な限り受入れていく努力をしていく。



サンウェル内のケーブルテレビスタジオ

来年度、保育士を5名採用予定

Q 早期退職のため、保育所運営費の給与費が減額となっているが、その補充はどうするのか。

A 昨年度末に2名が早期退職した。来年度その2名を加え5名を採用し、計画人数である70名としたい。

ケーブルテレビ事業を1市2町で運営

Q ケーブルテレビ事業の組織移行に伴い、負担金141万円が計上されているが、この市町割合はどうなっているのか。

A 新川広域圏で行っていたケーブルテレビ事業については、今後魚津市を除く1市2町で運営していく。各市町とも3分の1ずつ負担する。

こんな意見も

●国では、日本年金機構の情報漏えい問題となっているが、役場内の情報管理体制をしっかりとしてほしい。

●地区公民館のインターネット環境を、町が支援して整備してはどうか。

●各地区の自主防災活動で、現状では年度末まで立て替えをしなければならぬ。早期の補助を検討せよ。

町有林視察

6月19日に、議会は町有林(黒部市宇奈月地内、大字舟見、明日、音沢)を、片道2時間余りをかけ、徒歩で視察を行った。

事前に舟見生産森林組合の協力で作業道の整備に取組んでもらった。視察には、町所管課、町監査委員と新川森林組合も同行した。

町は、舟川ダムがある六谷線の奥地の稜線をこえたところに53畝の町有林を有する。

● ● 常任委員会

産業教育 常任委員会

助 直播き用田植機へ補

Q おいしい米作り実践事業として、100万円余が計上されている。その内容は。

A 今回は、集落営農組織に対して、直播き用田植機を対象に補助をする。

地域での直播き比率が10%以上となることが補



藻場造成中の大型クレーン船

助要件である。

米の品質向上に関わるものであれば、機械や機種を限定してはいない。

藻場造成に自然石を投入

Q 漁場整備事業の具体的内容は。

A 漁場造成に係る工事費の増額であり、国補助金の増額で、事業の一部を前倒しにするものだ。

魚介類の幼稚魚が住みやすい環境を整備するため、藻場造成に取り組む。

田中地区海岸の沖合い600m水深12m地点に、縦36m横103m四方の囲い礁を作り、1トンの自然石を3300個投入する。

Q 藻の増殖を考えた場合、自然石よりもカルシウム分を多く含んだコンクリートブロックを投下したほうが効果があるのではないか。

海底にある古いブロックを回収して再利用することも考えてはどうか。

A 自然石については、山から搬出したものを使う予定である。

昭和54年から漁場整備を行っているが、「入善町漁村再生会議」からは、天然石が良いとの報告もある。

今後、漁業者と国交省が互いに協議できるような機会も考えたい。

デマンドの予約センターを中央駐車場の管理棟へ

Q デマンドタクシーの予約センターを

中央駐車場の管理棟に設置することだが、タクシー会社や駅から距離もあり、不都合はないか。

国策により昭和30年代後半から40年代初期にかけて、分収造林として、整備されたものである。約15万3000本余のスギが植林されている。現在、黒部川水系の水源涵養林に指定されている。



険しい作業道に登る視察団

A タクシー会社が2社あるが、デマンドについては、1カ所で管理して行く必要がある。

管理棟については暫定的な場所としてスタートしたい。

今後、2社が共同で業務できる場所を早急に探したい。

こんな意見も

● カラスが依然として多い。有害鳥獣捕獲隊員の増員を考えるべきだ。

● フラワーロードの会場がわかりにくいと言う声を聞く。コンビニなどにもチラシを配布してはどうか。



入善浄化センター

一般会計から繰り入れてでも
下水道使用料の値上げ見直せ
住まい・まち
づくり課長
借金返済がピーク、
値上げは必要だ



井田 義孝 議員

問 町は来年度から下水道使用料を10%、5年後には20%も値上げを検討している。
そもそも赤字の根本原

因は何なのか。

米田住まい・まちづくり課

長 集中的に整備した結果、借金返済がピークに達する。人口減少や接続率が80%なのも原因。将来を考えると値上げは必要だ。

問 町の計画は、現在

2万6000人の人口が3万人程度で推移するとし、接続率を100%と見るなど、見通しが甘い。町の見通しの甘さを、一方的に住民にしわ寄せするような行政であってはならない。

総務省の基準を超えてでも一般会計から繰り入れて、住民負担を軽減すべきだ。

住まい・まちづくり課長

下水道会計は、原則、使用料をもって充てる独立採算とされている。

一般会計からの繰り入れは、総務省の基準に沿って行っている。

要支援高齢者の行き場がなくなってしまうのでは午前や午後だけのミニデイサービスを検討中

問 介護保険制度の改正で、4月から要支援者のデイサービスは20%以上報酬が下げられた。

経営上、受入れ困難とする事業所もあるが、今まで通りのサービスが受けられるのか。
小堀健康福祉課長 経営

上やっつけていけない所のために、午前や午後だけのミニデイサービスを検討している。

問 介護施設では、体制上ミニデイは無理だと言っている。

今まで通りのデイサービスもミニデイも無理では、高齢者の行き場がなくなる。

制度改善を国に強く申し入れるべきだ。

笹島町長 要望が聞き届けられるような体制を求めていく。

ダム排砂での調査の広域比較を

広域調査は要望した

問 黒部川のダム排砂について、2月の土砂管理協議会へ出された資料によれば、海底の土質が全

体として悪化している。

「黒部川・富山湾を考える会」が、次のことを町に要望した。

①海底の土質の悪化を住民に対して説明を。

②県漁連が行った海底調査で排砂の影響のない所との広域比較を。

③大きな礫を排出するために、排砂の際、いち早く水位を下げ自然流下にする実験を。

町はどう対応したのか。

窪野建設課長 海底の土質について専門家は、注視していく必要があるが、大きな影響はないと述べている。

広域比較は有効なので、5月の土砂管理協議会で要望した。

礫の排出については、土砂管理協議会などで審議されると考えている。

介護保険料を引き下げた自治体を

どう見ているのか

町長 介護予防事業の積極的推進で 保険料引き上げの抑制につなげる

問 新川地域介護保険組合では、介護保険料が基準額で、これまでの4800円から5600円に引き上げられた。全国の自

治体では、逆に保険料が引き下げられたところもあるが、どう見るのか。

多くの方が要介護状態にならないように努める。介護の充実と積極的な予防で、保険料のバランスをとっていく必要があると考える。

今後、積極的な介護予防事業を推進することで、介護給付費の軽減に努め、保険料引き上げの抑制につなげていく。

**三世帯同居世帯に補助制度の取組みを
既存事業の効果を見て
調査・研究したい**

問 世代間でお互いに支え合いながら、子どもを安心して産み育て、高齢者が健康的に安心して暮

らすためにも、三世帯同居世帯に補助をする考えがないか。

町長 町では、0歳児から、保育所で預かっている。一方では、乳幼児期について、家庭での育児を推奨しているところである。そのことが結果的に、三世帯同居の推奨にもつながると考える。

三世帯同居や近居では、働きがかりの若い世代にとつては、子どもたちを祖父母にみてもらえる。

逆に、祖父母にとつても身近な生活をサポートしてもらえるなど、良い点がいくつもある。

既存の事業の効果を

みながら、調査・研究をしていきたい。

**介護をする人の心のケア体制を
介護者同士の交流を支援していきたい**

問 在宅介護における介護者の心のケアをどう支援するのか。

健康福祉課長 近年は、地域での介護予防や生きがいづくり、さらに同じ悩みをもつ介護者同士の交流を支援する動きも活発になってきている。

町としても、その活動を推進する。



健康と福祉の拠点サンウェル



五十里 忠茂 議員



国の直轄となっている下新川海岸

下新川海岸の高波・地震・津波対策の 充実と強化を

町長 国と連携を取り海岸保全整備を 着実に推進する



田中 伸一 議員

問 たびたび大きな被害を受けてきた町の海岸は、下新川海岸として、国の直轄となっている。

対策、地震・津波対策として海岸堤防などの施設の耐震化や老朽化対策を進めるべきだ。

現在の状況と今後の取り組みは。

町長 通常起こり得る地震に対する堤防の耐震性調査を平成24年度から2カ年かけて実施された。施設の耐震性は、満足する結果だと聞いている。

国との連携を密にし、海岸保全整備を着実に推進させ、減災・防災対策の充実に努めていく。

問 防災士の養成が地域防災力強化に有効だ。具体的な目標数値を設けて増員すべきだが、町の現況と今後の取り組みは

どうなっているのか。

町長 全国平均を確保しており、今年度は各地区1名の増員を図り10人の養成を計画している。今後も継続的に養成していく。

海岸防災林造成の進捗状況と今後の取り組みは進捗率は85%で順調に推移

問 町森づくりプランに海岸防災林造成整備事業がある。

その進捗状況や、今後の取り組みについて問う。
建設課長 町の海岸防災林の延長は、約6・7kmで、26年度末の整備済みは約5・7km。進捗率は

85%と順調に推移している。

防災林の整備は、地元地権者の同意と、地域住民による維持管理の協力も必要だ。

地元の同意が得られた箇所から整備する。

**うるおい館のマルチルームに通信カラオケを
慎重な判断が必要で
今は考えていない**

問 うるおい館マルチルームに通信カラオケを整備することにより、中心市街地の活性化が期待されると思うがどうか。

梅澤キラキラ商工観光課長 民間でも対応可能でマルチルーム本来の目的から外れ、今は特定の機材を設置する考えはない。

**パークアンドライドによる駅周辺環境整備は
公共交通を生かしコン
パクトなまちづくり**

問 駅周辺整備基本計画策定にあたり、町道入善駅国道線の整備も合わせ町の構想を問う。

キラキラ商工観光課長 市街地における住環境と商業環境が調和し、公共交通を生かしたコンパクトなまちづくりを目指す。

駅前ロータリーにおけるバスやタクシー、一般送迎車両の混雑解消のためロータリーの機能改善が必要だ。

町道入善駅国道線の拡幅整備も含め、駅周辺の町道改良と併せて基本計画を策定していく。

町の自主財源への考え方と取組みを示せ

町長 先進事例を参考に、できることから取組む

問 地方税の外、事業収益による自主財源確保についての考えはあるのか。

町長 本町の町税などの自主財源の状況について

は、変動するものだが、決算における歳入総額のおおよそ40%から50%弱の割合になっている。

自主財源は、町が自主的に調達できる財源である。持続可能な行政運営や、行政サービスを提供し、主体的な行政活動を推進するためにも、自主財源の確保は重要な課題であると認識している。

画は無いが、国のエネルギー政策を見極めつつ、メリットや収益性などを慎重に検証し、自主財源を確保する手段の一つとして検討していきたい。

また、社会・経済情勢が大きく変化する中で、今後、本格的な地方創生の取組みが始まることから、安定的な自主財源の確保が欠かせないものであると思っている。



県営の小水力発電「小摺戸発電所」

他の自治体では、風力や小水力発電など再生可能エネルギーを活用した発電事業の余剰金を、自主財源として確保している事例がある。

現在のところ、町が電気事業を行う具体的な計

国・県補助金や地方交付税などの依存財源に過度に頼ることなく、自主財源の安定的な確保に向けた様々な方法について、先進事例を参考に検討していく。

できることから取組

み、自主財源の確保に努めたい。

地域商工業者の育成・支援の取組みは対象地域の範囲など必ずしも含め検討

問 地域商工業者の創業・育成支援に対する町の取組みはどうか。

キラキラ商工観光課長

町では、中心市街地の空き店舗対策や、商店街活性化対策として、平成19年度から「起業チャレンジ応援事業」を行っている。

現在まで12店舗が開店している。今現在、2件の申請を受けている。

加えて、平成26年度からは、商店街のにぎわい創出を目的に「元氣な商店街再生事業」を開始しており、すでに8件の利用がある。

今後、対象地域の範囲のあり方や、対象地域以外においても、対策の必要性も含めて検討していきたい。

また、補助率、限度額の引き上げについては、現在までの状況から、現状のままでの運用をした



本田 均 議員



期待されるデマンドタクシー

デマンドタクシーの周知徹底を 町長 広報やパンフレットなどで周知を図る



佐藤 一仁 議員

問 町公共交通見直しに際し、デマンドタクシーの具体的な説明がなされていない。今後はどのようにするのか。具体的ス

ケジュールを。

町長 町営バスは依然として空気を運んでいるとの指摘も多く、公平で効率的な運行が求められている。路線などに関係なく、誰もが等しく利用できるデマンドタクシーの導入と町営バス路線の見直しを進めてきた。

デマンドタクシーでは、医療機関やショッピングセンター、交通機関や温泉施設などをバス停として、自宅まで送迎する。ダイヤも1日8便ときめ細かく運行する。デマンドタクシーの利点や町営バスとの違いの周知を図り、理解を得ることは重要だ。

社会福祉協議会や福寿

会などを中心に説明会の日程調整をしている。町広報やパンフレットの全戸配布、ケーブルテレビなどで周知を図る。バス車内でも乗客に直接周知する。

問 周知徹底のため10月まで運行開始を先送りする考えはないか。

町長 早期運行を望む声もあることから、運行開始は7月27日を予定している。

町営バスを横山地区まで延伸を

路線の許可を考慮すると延伸は困難だ

問 朝日町の公共バス

との接点づくりのために、横山地区まで延伸する考えはないか。

町長 現在の計画は市街地と舟見地区を結ぶ運行だ。町営バス運行委員会などでの協議を経たものだ。陸運局の許可などを考慮すると、路線延長は困難だ。

朝日町との接点づくりについても、広域運行などの声があることから、近隣市町と事務レベルでの協議を行っているが、解決すべき問題点も多いことから、難しいと考える。

入善駅でのJR切符の発売状況は

入善駅でのJR切符の購入促進を図る

問 あいの風とやま鉄道入善駅の利用状況やJR切符の発売状況は。

竹島企画財政課長 あいの風とやま鉄道では、現時点での駅利用状況は把握していない。

参考だが、4月末で定期券の発売状況はJR時代の1割増しの約1万7000枚だ。6月1日に利用状況調査が行われる。

JR切符の販売状況も公表されない。入善駅でJR切符が買えることを知らない方も多く、広報などで利用促進を図る。

問 通勤通学時間帯の車両増結やダイヤ変更を求めるときでは。

企画財政課長 通勤通学時間帯に混雑が見られ、利用者から苦情や要望が出ている。

保有車両で連結増をしており、今後、より利便性の高いダイヤへの改善を図りたいとのことだ。

本町の農地の集積状況は

町長 担い手への貸付件数は県内トップ



直播栽培で労力削減

問 安倍政権は成長戦略で、米の生産調整廃止や農協改革と並び農業強化策の柱たる農地中間管理機構を設置する法律を

2013年に成立させた。

農地を集約し環太平洋経済連携協定をにらみ農家の大規模化で、輸入農産物に対し競争力を向上させる狙いだ。

本県の導入初年度目標の達成率は全国一の99%で2311㊦である。

県は現在の50%の集積率を2023年までに90%まで引き上げる計画だ。町は、どのように農家を指導していくのか。

町長 富山県では、県の農林水産公社が、中間管理機構に指定されている。管理機構は、農地を集約化し、地域の担い手や新規参入希望者などに

貸し付ける。

町では平成15年度に町

農業公社を設立し、農地集積を進めてきた。集積円滑化事業や「人・農地プラン」を県下でいち早く策定し、農地の集積に積極的に取組んできた。

町の農業公社が、県より業務の一部を受託し新たな事業への移行や集積がスムーズに行えたのは、このような実績が生かされたと考えている。

本町において26年度の農地集積実績は283㊦であり、新たに利用権が設定された面積は155㊦だ。

担い手貸付件数は65件と県内トップであり、今

後も制度の周知と相談体制の充実を図っていく。

直播栽培の普及をどう図るのか

関連機関と連携し普及拡大を図る

問 本町の直播栽培は10年前の2・5倍で304㊦に拡大した。コストと労力がかからず作業分散が出来るなど、メリットも多く経済効果も期待されている。

J Aの農業再生協議会でも、直播栽培で10㊦当たり2万9564円の経費削減のメリットを強調している。県は4000㊦まで増やす目標を掲げているが、どのような指導体制を考えているのか。

るのか。

真岩がんばる農政課長

今年度の直播作付面積は、昨年より71㊦増加した。本町水稲作付面積2800㊦の約11%が直播栽培で、県全体の1割が入善町で行われている。

直播栽培は移植栽培と比較し、育苗作業や苗の運搬、苗箱の片づけも不要となり、コストや労力が削減できる。

労働時間も約3分の1に短縮でき、収穫時期が1〜2週間遅くなるため、登熟初期の高温による品質低下の回避や、作業を分散するメリットもある。

J Aみな穂や県など関連機関と連携し、普及拡大を図りたい。



五十里 国明 議員



有効活用が求められる遊休地

地方版総合戦略策定作業はいつ頃を目途にしているか

町長 交付金の申請を視野に、10月中旬を目指したい



野島 浩 議員

問 地方創生事業の地方版総合戦略策定作業は、いつ頃を目途に進めていくか。また、時間的な余裕はあるのか。

町長 国は、策定について、今年度中の提出を求めている。一方で、国の財政支援については、地方創生先行型交付金の上乗せ予算措置がなされており、その条件として、10月末までの策定が必要となっている。

町としては、先行型交付金の申請を視野に10月中の戦略策定を目指して、副町長を本部長とする「入善町地方創生推進本部」を立ち上げた。

しかし、策定までの期間は大変に短く、町職員の総力を結集して取組んで行きたい。

問 策定にあたっては、全国1800市区町村の

知恵の競い合いとも言える。広く町民の生の声を求め反映して行くべきと思うが。

また、地方創生へかける町としての本気度はどれほどか。

町長 推進本部とは別に「入善町まち・ひと・しごと創生戦略会議」を設置し、年齢や性別に関係なく各界各層から様々な提言を求めたい。町づくり懇談会やパブリックコメントなどを通して全町民の知恵により、未来の入善町創造のために議論を深めたい。

人口減少の克服こそが私が目指す町づくりの基調であり、今まで以上に

スピード感をもって取組むべきと、気概を新たにしている。

問 本年度当初予算で見込まれていた社会資本整備総合交付金の大幅な減額内示があったと聞く。財源面における地方創生の影響か。

町長 国からは、決して地方創生事業が既存事業を圧迫するものではないと説明を受けている。しかし、減額により住民生活に影響が出ないよう対応したい。

町遊休地を町民農園や観光農園として活用を可能性や継続性について十分検討したい

問 バーデン明日の取得

時に寄付を受けた黒部市内の遊休地9151㎡を、町民農園や観光農園として一般開放できないか。

がんばる農政課長 遊休地を活用した町民農園や観光農園の開放は、週末帰農者の受け入れや、バーデン明日の宿泊者を対象とした収穫体験などを組み合わせるにより、交流活動や観光客の増加につながる可能性がある。

しかし、整備費や飛び地であるという地理的問題、維持管理や収益性の見込みなど課題も多く、様々な角度から検討が必要である。

今後、可能性や継続性などを含め、十分に検討したい。

今後、町内の学校に対し、改修工事など

予定していることはあるか

町長

飯野小学校や入善小学校について
大規模改修事業に力を注いでいきたい



築25年以上の入善小学校

問 入善小学校、飯野小学校は、新築されてから25年以上が経過している。今後、町内の学校に対し、改修工事などを予定

していることはあるか。

町長 現在は、築後30年あまりが経過した上青小学校の大規模改修の第1期工事が完了し、第2期工事の準備を進めている。来年度の第3期工事をもって終了させたい。

今後の改修工事について、総合計画を踏まえ、飯野小学校や入善小学校について老朽化対策としての大規模改修事業に力を注いでいきたい。

ICTを活用した教育に力を入れるべき
管理・維持も含め、慎重に検討する

問 ICTを活用した教

育に力を入れるべきと考えるがどうか。

そのためにも、全教員にタブレット端末を支給し、各学校のWiFi環境の整備をしてはどうか。

池原教育長 近年のタブレット端末の普及は目覚ましいものがあり、遠からず教育活動への利用が進んでいくものと予想される。

また、入善町の小中学校においても、試験的に導入し利用を図っているところがある。

これらは、小学校教育研究会などの研究指定を受けて配備されたものである。実際に録画機能などを活用し、授業にお

る個人やグループの技能向上について研究を行っている。

将来的にタブレット端末が持つ通信という機能をより生かしていくこととなれば、WiFi環境の整備も必要性が高くなるものと認識している。しかし、これらの導入については、管理・維持も含め、教職員の研修体制と、情報漏えいを防ぐセキュリティ対策が最も重要であり、慎重に検討する必要がある。

入中の危険箇所マップにどう対処しているか
関係機関に改善を働きかけていく

問 入善中学校のPTAが危険箇所マップを作成しているが、どのように扱い、対処しているのか。

また、子どもたちの登下校に対し、どのように安全性を図っているのか。

岩田教育委員会事務局長 このマップから把握された危険箇所については、学校・地域とともに、関係機関に改善を働きかけていく。また、生徒たちには、より一層の注意喚起を行うなどの取組みを実施していきたい。

子どもたちの通学路の安全性については、学校における交通安全指導を徹底している。また、道路管理者や公安委員会、防犯パトロール隊など地域の方々の協力を得ながら、関係機関と協議し、安全で安心して学校生活を送ることができるよう、対処していきたい。



中瀬 淳哉 議員



デマンドタクシーの予約センター

デマンドタクシーの
運賃・予約時間は見直しを
町長 住民の声に耳を傾け柔軟に対応していく



松田 俊弘 議員

問 デマンドタクシー（乗り合い）の運賃が500円では高すぎる。75歳以上の人は300円としたことは一定の改

善だが、なぜ75歳以上か。割引は、子どもや車を運転できない全ての人を対象とし、バスと同様に定期券も発行すべきだ。

キラキラ商工観光課長

散居村といった諸事情で運賃を決めた。定期券の発行は考えていない。

問 予約が前日の4時まででは早すぎる。全国では1時間前が主流だ。

町は数千万円のシステムが必要と言うが、東京大学が開発したシステムは、多数の自治体が共同で使え、年70万円で済む。研究したのか。

企画財政課長 そのタイプは検討していない。

問 もっと住民の意見を

聞き、時間をかけて検討すべきだ。

町長 住民の声に耳を傾け柔軟に対応していく。早期実施をとの声があり、7月から実施する。

米価暴落に対する国の補てん額はどれだけか
町農家全体で2億円余と試算した

問 町農家全体の収入は、米価暴落で約4億円、国の補助金削減で約2億円減った。

国は、ナラシ制度の加入農家には収入減の68%を、未加入農家には34%を補てんする。町では、それぞれ104件と

921件が対象だ。しかし、一部の農家にナラシが発動されないと聞くが、実態はどうか。

また、農家全体への補てん額はどれだけか。

がんばる農政課長 大豆の増収で約20件が対象外になる。補てん額は、ナラシで1億2800万円、未加入者で約1億円と試算している。

問 農家の機械購入に国が支援する制度では、選考基準が家族経営に厳しく、改善を求めべきだ。

また、町の農地は地力が弱く、コメの等級が低下する要因となっている。町は、農家の鶏ふん散布の6分の1を補助しているが、もっと支援を強めるべきだ。

がんばる農政課長 家族経営体でも、経営の複合化や6次産業化などで補

助対象になる。土づくりの積極的かつ、きめ細かな対策の推進に努めていく。

通学路の歩道や信号機設置を強く働きかけよ
重点項目として県に要望する

問 桃李小学校通学路の鉄道ガード下の歩道整備を急ぐよう、鉄道会社に強く働きかけるべきだ。

また、古黒部・藤原間の県道バイパスの早期完成を求めよ。

古黒部地内の8号線交差点の信号設置について、県警は「設置に向けて検討中」と答えた。町の積極的な働きかけを求める。

震災からの復興状況と地域資源を活用した 活力ある地域づくりを視察して

宮城県・岩手県

6月24～26日の3日間、宮城県名取市閑上地区の震災復興状況や、岩手県葛巻町のクリーンエネルギー、岩手県久慈市の地下水を活用した夏イチゴ栽培の研修視察を行った。

部に位置する閑上地区は、漁業・農業が盛んな人口7100人の町だ。

2011年3月11日東日本大震災が発生し、未曾有の津波被害により883名の犠牲者を出した。

街の大部分は流失してしまい、震災から4年がたった今でも、多くの人々が仮設住宅で暮らしている。

閑上復興へ もう一度心を一つに

宮城県名取市の沿岸



内陸部に作られる津波の減衰堤防

閑上地区では今、堤防の増設や水田の基盤整備、住宅地のためのかさ上げなど、復興への取組みが進められている。



山の斜面を利用した太陽光発電

としている。

クリーンエネルギー ギーの恵みの大地 葛巻町

葛巻町は、入善町の約7倍の面積で、東北一の酪農郷である。

2カ所の1000戸超の高原牧場では、高原に吹く風をエネルギーに変える15基の大型風力発電施設が稼動し、総出力2万2200kwを発電し

ている。また、太陽光発電や、牛ふんや木質によるバイオマスエネルギーの利活用を推進している。葛巻町では、電力

自給率は160%を誇っている。しかし、震災時に町民に電力を供給できなかったことで、新たにエネルギー管理センターをつくり、直接町民に安定した電力を供給できるように取組もう

夏イチゴ栽培に 地中熱を活用 久慈市

久慈市の民間業者は、地下水の熱交換を活用した夏イチゴ栽培に取組んでいる。

「地中熱ヒートポンプ」で根の部分の冷やすことにより、年間4～5回、

開花させている。久慈市では、太平洋からの「ヤマセ」で夏は涼しく、冬は少降雪で温暖なことも好条件の一つとなっている。

国産イチゴが品薄となる夏場をメインに出荷できる栽培に取組んでいる。高い市場性が見込まれる時期での供給を通じた地域経済の循環を目指している。

この事業は、東日本大震災に係る復興計画の中で、国の地域経済循環創造事業交付金を活用している。

今後も、産官学金連携によるフォローアップが継続される。この取組みを成功事例として確立し、地域内の波及を促すことで、地域ブランドとして発信力を高めていくことを目指している。



イチゴ栽培の説明を受ける視察団

入善の祭り

東狐の獅子舞

東狐地区は江戸中期より黒部川の氾濫に悩まされながらも、純農村の形態を整えつつ発展してきた。

明治の初めに戸数が100戸に達した頃、稲荷社に獅子舞を奉納し、これまで以上に収穫の喜びを分かち合うことになった。

そこで、他地区へ習いに



班に別れて派遣された。前沢地区（現黒部市）と神林地区へ赴き習得したのが、東狐獅子舞の起りである。と伝えられている。

当時より140年余り経過した今日、演目や演技などに創意と改善が加えられ、東狐地区独特の獅子舞として地区住民に親しまれている。東狐獅子舞の獅子頭は大変大きく、勇壮で睨みのきくのが特色だ。

獅子舞の演目

- ・ 起こし舞
- ・ カラカサ
- ・ トロロ
- ・ テンマリ
- ・ 猩々しょうじょう
- ・ 天狗相撲
- ・ 餅つき踊り
- ・ 獅子ノリ
- 小学生の演目
- ・ 大回り小回り（男子）
- ・ カラカサ踊り（女子）
- ・ 手踊り（六年女子）

毎年秋のお祭りは10月の第2土曜日に執り行われ、

各公民館・上飯野新神明社、稲荷社の境内で小学生や天狗などが出演し、夜10時頃までにぎわっている。

2日間かけて行なう御巡行は、希望者宅を50戸訪問し、6年ごとに行われている。

とやまの獅子舞百選に

平成18年3月にとやまの獅子舞百選に選定された。選定された種目は「天狗相撲」「トロロ」「テンマリ」だ。

・ 天狗相撲

天狗同士が3番勝負の相撲をとる。行司役が天狗を紹介する唱え言葉は、「こなた浅間山の大天狗」「こなた鞍馬山の小天狗」「3番勝負にてご覧に入れます」などである。

なお、行司役の衣装や面は、明治初期から伝わる大変古いものである。

・ トロロ

ばあちゃんが、やま芋で作ったトロロで天狗をこらしめようと計画して見事に



成功したが、最後には、天狗に仕返しをされる姿を表現している。

・ テンマリ

天狗と獅子が1個のまりをめぐる、たわむれる姿を表現したものだ。

毎年のように県内外のイベントに出演している。今年5月には、とやま森の祭典で演技を披露した。

編集の窓

近年のICT（情報通信技術）の普及は非常に目覚ましいものがあります。全国の自治体でも、ICTを活用しながら、行政運営を行っているところも多くなってきました。

入善町議会としまして、7月より「i広報誌」を用いて議会広報を発信することになりました。スマートフォンでも議会広報を見ることが出来ます。

この機会に若い人にも、ぜひ議会により関心を持ってもらえればと思います。今後も町民に親しまれる広報編集に努めていきます。

議会広報編集特別委員会

議長	中瀬 範幸
委員長	鬼原 征彦
副委員長	松田 俊弘
委員	山下 勇
委員	野島 浩
委員	田中 伸一
委員	中瀬 淳哉